

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			服装造形論 I A	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服全般の基礎知識を習得する。(縫合の基礎、作図基礎理論、体型観察) ・服作りの基礎となる服の構造、デザイン表現、作図方法、素材の扱い方、縫製方法を各アイテムにおいて習得する。 ・バザー作品を通し、ボランティア精神の育成と既製服としてのデザイン、縫製法、検品、販売までの流れを学習する。 	1・通年	120	4	○			○				○
○			服装造形デザイン I A	<ul style="list-style-type: none"> ・ドレーピングの基礎知識を習得する。(ボディについて、布の準備、基礎ドレーピング・マーキング・ドラフティング) 1 基礎I (一般知識・縫い方の基礎) 基礎縫いAミシン縫い・B手縫い 2 体型研究 身頃原型・スカート原型 (1/4・実物作図) ・トワール製作・試着補正・レポート 3 スカートI デザイン・パターン・実物製作・レポート 	1・前期	120	4			○	○				○
○			服装造形パターン メイキング I A	<ul style="list-style-type: none"> 4 シャツブラウスI デザイン・パターン・実物製作・レポート 6 子供服 デザイン・パターン・実物製作・レポート 7 バザー作品 文化祭バザー作品実物製作・検品・販売 8 スカートII デザイン・パターン・実物製作・レポート 9 ジャケットI デザイン・パターン・実物製作・レポート 	1・前期	120	4			○	○				○
○			服装造形ソーイング I A	<ul style="list-style-type: none"> 10 ワンピースドレスI デザイン・パターン・実物製作・レポート 11 パンツI デザイン・パターン・実物製作・レポート 12 ドレーピング基礎 (文化ボディ) 胸ぐせダーツのバリエーション (アームホールダーツ) 	1・前期	210	7			○	○				○
○			量産技術概 論・実習	<ul style="list-style-type: none"> アパレル製品の生産について関心を持たせ、一品作りと量産の違いについて認識させること目標とする。 実習として工業用ミシン・アイロンを主とした生産機器の安全な使用方法を習得する。 後期には生産指示書類の見方に関する講義や特殊機器見学を行い工業生産に関する理解を深める。 	1・通年	30	1	○		△	○				○

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			自由研究 I A	・ 服装造形の全ての細目において、各自興味を持ったテーマについて研究する。 ・ 各自の目標に合わせ既習細目におけるレベルの向上をはかる。	1・前期	30	1			○	○			○	
○			自由研究 I B	・ 個々の能力に合わせて知識・技術を応用発展させ、各自の専門性を追及する。 ・ 発表会（展示会）を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。	1・後期	30	1			○	○			○	
○			ファッションビジネス概論	・ ファッションビジネスの基礎知識の理解 ・ ファッション産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応	1・後期	30	1	○			○			○	
○			ファッションデザイン画 I	ファッションデザイン画は、人体ポーズと衣服の関連を把握し、デザインの構造を明確に描くことが出来るよう指導に努め、基礎技法を中心に学生個人の感性を尊重しファッションデザイン画を表現することを目標とする。	1・通年	60	2			○	○			○	
○			クロッキー	様々なものの見方を通じ、ものを見て描く事・表現につながる描写と楽しさを再認識する事と合わせ、個性を伸ばす為の観察力・基本描写能力・表現能力の習得を目的とする。	1・通年	30	1			○	○			○	
○			西洋服装史	古代から近世18世紀までは、その時代背景を踏まえ美術史や映画によって服飾の特長を解説していく。19世紀近代以降は、パリオートクチュール・ビジネスが確立し、ファッションが産業化していく過程を見ていく。20世紀以降はデザイナーの時代であり、デザイン史、音楽史、映画史などにも触れながら、多方面からのアプローチによって理解を深める。	1・通年	60	2	○			○			○	

○			<p>服飾デザイン論 I</p>	<p>教育目標 : 服飾デザインにおける色彩、形態、コンポジションについての講義及び演習を通して基礎的な知識と技術を身につけ、創造力、分析力を養うことを目標とする。</p> <p>レベル設定 : 色彩の基礎知識や配色の基礎、形態の構成要素やシルエットのとらえ方、コンポジションのセオリーについて理解し、それぞれのテーマに沿ったビジュアル表現ができる力を有する。</p>	1・通年	60	2	○			○		○					
---	--	--	------------------	--	------	----	---	---	--	--	---	--	---	--	--	--	--	--

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アパレル素材論Ⅰ	アパレル製品や各自製作物の素材に関心を持たせることを目標とし、アパレル（衣服）の構成要素である繊維、糸、布地の種類や特徴についての基礎的知識を習得させる。さらに代表的な綿、毛、絹織物の種類に関して、教材（テキスタイルファブリック）を活用しながら、糸の構造や織物組織などの特徴に着目させ、理解を図る。	1・ 通 年	60	2	○			○		○		
○			服飾手芸Ⅰ	服飾手芸全般における基礎知識を学び、それぞれの技術を基にして服飾造形及び服飾小物などに応用発展できるようにする。また、素材・テクニック・造形・色の組み合わせのバランス感覚を習得し、クリエイティブかつオリジナルな創作力を身につけることを目標とする。	1・ 前 期	30	1			○	○			○	
○			服装解剖学Ⅰ	解剖学的な人体の構造を衣服パターンと関連づけながら理解させ、美的で機能的な衣服製作に必要な人体（骨格）に関する基礎知識を学習させる。次に人体を外観から観察し、形態やプロポーションを認識させる。	1・ 後 期	30	1	○		△	○			○	
		○	英会話	英語の基本的な文法の復習と確認をするだけでなく、英語を使ってコミュニケーションが出来るようになる事を最終目標にすえた英語に親しむ実践的なコース運営を目指す。 グループ、ペア・ワークを中心に会話の模擬体験を通して、コミュニケーションには何が必要かを体感してもらいたい。 ファッションを専攻している学生なのでファッションに関する語彙も導入する。	1・ 後 期	30	1	○			○			○	

○				キャリア開発 I	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成のための講義と進級に関する講義で構成する。 ・新しい環境の中で社会人と学生の違いを認識し、将来の進路を考えるきっかけを作る。また、コミュニケーション能力を高め、自分という存在について考え成長できる『人間力』の育成を目指す。 ・各自の適性を把握し、進路について考え将来の方向性を決める。 	1・ 通年	30	1	○			○				○
---	--	--	--	-------------	---	----------	----	---	---	--	--	---	--	--	--	---

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 ファッション工科基礎科) 2019年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携		
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任			
○			特別講義 I	・ファッション業界の各分野において幅広い知識・技術を修得すると共に、各自の専門性を考える動機付けを目標とする。 ・レギュラー授業で包括できない部分の専門関連分野の知識を習得する。	1・ 通年	30	1	○			○			○			
○			校外研修 I	・都会生活から離れた「山荘」における団体生活の体験。 ・野外活動・体育活動など諸活動を通して指導力・協調の精神を養い、コミュニケーション能力の向上を目指す。 ・個人相互およびクラス間・学年間の親睦を深める。	1・ 前期	30	1			○		○			○		
		○	コラボレーションa	・1年次では、産業とのかかわりを持つことにより、企業とその実務を知るきっかけをつくり、課外活動（コンテスト活動など）への積極的参加を推進することを目標とする。 ・個々の能力に合わせて各自の専門性を追及する。	1・ 後期	30	1			○	○				○		
合計																18科目	1,110単位時間(37単位)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 インダストリアルマーチャンドライジング科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アパレル造形論 I	人体の構造や運動機能を視野に入れ、素材の特性を活かした作品を平面裁断・立体裁断のテクニックにより個々のデザインの発想力と表現力を身につける。	2・ 通 年	60	2	○			○	○			
○			アパレル造形演習 デザイン I	1、立体裁断 I タイトスカート、セミフレアスカート又はフレアスカート ショルダーダーツ、ウエストダーツ、胸ぐせダーツバリエーション 2、シーズン表現 I 作図理論、デザイン、パターン、実物製作、レポート	2・ 通 年	120	4		○		○	○			
○			アパレル造形演習 ドレーピング I	*一重アウターでのセットアップ 3、バザー作品 文化祭バザー作品、グループ製作 4、シーズン表現 II 作図理論、デザイン、パターン、実物製作、レポート	2・ 通 年	60	2		○		○	○			
○			アパレル造形演習 実技 I	*ウールを使用したセットアップ 5、立体裁断 II ブラウス 衿3種 7、修了製作 作図理論、デザイン、パターン、実物製作、レポート	2・ 通 年	180	6			○	○	○			
○			マーチャンドライジング論 I	ファッションマーチャンドライジング（基礎）を理解し、デザイン発想力の育成・感性を具体的に表現する能力の育成する。	2・ 通 年	60	2	○			○	○			
○			生産管理概論	アパレル産業の生産プロセスを、縫製工場とアパレルメーカーの双方から捉え、工業生産についての理解を深めることを目標とする。また、縫製仕様書や加工・裁断・芯貼り指図書や工程分析表などの作成を通して、生産情報の伝達・管理手法や量産的な考え方を学習し、基礎レベルの習得を目指す。	2・ 前 期	30	1	○			○	○			

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 インダストリアルマーチャダイジング科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ニットアパレル造形Ⅰ	ニットの基礎知識を習得し、アパレルにおけるニット製品の製作工程や技術を学ぶ。ニットに使用される素材・編み地について商品知識と共に学ぶ。	2・前期	30	1			○	○		○		
○			自由研究Ⅱa	科の特色の学科や特論で得た知識を活用し応用発展させる。 *各課題にコンセプト設定をし、マップ作成をおこなう。 制作後プレゼンテーション形式で発表できるようにまとめる。 *アパレル造形の課題に効果的なコーディネートに必要なものを制作する。	2・通年	30	1			○	○		○		
○			自由研究Ⅱb	科の特色の学科や特論で得た知識を活用し応用発展させる。 *修了制作ショーにおいて各パートの活動運営に参加をする。	2・通年	30	1			○	○		○		
○			ファッションマーケティングⅠ	アパレル業界におけるマーケティング業務の実務を講義と実習により指導し、ファッションマーケティングの基礎知識を習得させる「実学」を目指す。	2・通年	60	2	○			○		○		○
○			色彩計画Ⅰ	1年次『服飾デザイン論』で習得した色彩の基礎を発展的に学習する。配色やイメージ表現などの基本的な色彩スキルをトレーニングしたのち、コンセプト策定からプレゼンテーションまでの色彩計画の考え方を演習を通して学習する。	2・通年	60	2			○	○		○		
○			ファッションデザイン画Ⅱ	衣服のデザイン、構造を的確に描くことができるようになることを第一の目標に、学生個々の表現力を伸ばしていく。材質表現を中心としたベーシックなドローイング、彩色テクニックの習得及び明瞭なアイテム図の描き方を習得する。	2・通年	60	2			○	○		○		

○			<p>1年次で習得した素材の知識を基に理解を深める。さらにニットアパレルの要求度に合わせ編地の種類と性質の理解も教育目標にする。</p> <p>何れも繊維・糸・布・染色・加工に着目し製品とのつながりを持たせた上で素材の理解に結びつける。</p>	2 ・ 前期	30	1	○			○		○			
---	--	--	--	--------------	----	---	---	--	--	---	--	---	--	--	--

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 インダストリアルマーチャндаイジング科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アパレル品質論	テキスタイルやアパレルの企画、製造、販売における品質管理に関する知識を習得し、「関連する法律を理解し遵守する」「お客様の要求品質を満たす」ための活動ができることを目標とする。講義に加え演習を行い理解を深める。	2・後期	30	1	○			○		○		
○			コーディネート論	ファッションコーディネートに必要な基本知識と様々なコーディネートテクニックを習得することを目標とし時代への適応力、客観的に捉えたファッションコーディネートの提案能力を養う。	2・後期	30	1	○			○		○		
○			デザイン文化	近代デザインの歴史と理念を踏まえ、現在のエディトリアル、グラフィック、ショップ空間、衣服などにおけるデザインの意味と役割について具体的に考察する。また、芸術、建築、写真、映画、音楽、広告などファッションに隣接する文化領域について学び、その関連性を知ることによって、ファッション文化への理解を深めることを目的とする。	2・通年	60	2	○			○		○		
○			英会話 I	英語の基本的な文法の復習と確認をすることだけでなく、英語を使ってコミュニケーションが出来るようになる事を最終目標にすえた英語に親しむ実践的なコース運営を目指す。 グループ、ペア・ワークを中心に会話の模擬体験を通して、コミュニケーションには何が必要かを体感してもらいたい。 ファッションを専攻している学生なのでファッションに関する語彙なども導入する。	2・前期	30	1	○			○			○	

○			グラフィック ワーク I	ファッション産業におけるグラフィックの役割と有効性を理解し、ファッション表現のツールとしてパーソナルコンピュータ及び、グラフィックソフトを使う能力を身に着けると同時に、各自の企画デザイン力及びプレゼンテーション能力の習得、向上を目標とする。デジタルファッション画、イメージ・ビジュアル、ロゴデザイン等の製作を通してグラフィックソフトの基礎技法習得を目指す。	2・ 通 年	60	2			○	○		○					
---	--	--	-----------------	--	--------------	----	---	--	--	---	---	--	---	--	--	--	--	--

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 インダストリアルマーチャダイジング科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			キャリア開発Ⅱ	志望する企業への就職のために必要な基礎知識、および技術等の習得を狙う。 ・授業内において、考える時間や発表する時間を設定し原体験を行うことにより経験値を高める ・筆記試験対策を行う	2・後期	30	1			○	○		○		
○			特別講義ⅡA	アパレル産業の現状を先輩の実体験からのアドバイス、そして科の特色に沿った知識としてレギュラー授業に加えたい内容の講義・実習。	2・前期	30	1	○			○		○		
○			特別講義ⅡB		2・後期	30	1	○			○		○		
○			校外研修Ⅱ	日本の伝統文化古都（京都）に赴き、仏教美術・仏像建造物・庭園などの美に触れる。 また工場見学を行い、新しい技術や長年培われた地場産業の技術を見学する。	2・後期	30	1			○		○	○		
	○		企業・学内研修 a	アパレル業界の現場・現状を把握させるためにアパレル企業で実際に研修を受けることで、学校教育で体験できない実学を学ぶ。	2・後期	30	1			○		○	○		
	○		企業・学内研修 b	就職希望者の企業研修期間中に平行して、企業研修に参加しない学生は学内研修を受講。	2・後期	30	1			○		○	○		
		○	コラボレーション b	科の特色の科目や特論で習得した知識を活用し、外部講師・企業とのコラボレーション活動をグループで参加する	2・通年	30	1			○	○		○		
学科合計					24科目		1200単位時間(40単位)								

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 インダストリアルマーチャダイジング科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			アパレル造形論Ⅱ	各自コンセプトに基づいたクリエイション性の高いデザインの表現力を向上させる。 1、プライベートブランドⅠ（春夏アイテム 一重ジャケットとボトム） デザイン・パターン・実物製作・プレゼンテーション	3・通年	60	2	○			○		○		
○			アパレル造形演習 デザインⅡ	2、バザー作品 文化祭バザー作品 デザインから販売まで ※グループ製作 3、プライベートブランドⅡ（秋冬アイテム） デザイン・パターン・実物製作・プレゼンテーション 4、立体裁断 3面構成のジャケット 4面構成のジャケット ラグランスリーブコート	3・通年	120	4		○		○		○		
○			アパレル造形演習 実技Ⅱ	※文化ヌードボディ使用 5、プライベートブランドⅢ（春夏アイテム卒業制作作品） デザイン・パターン・実物作品・プレゼンテーション	3・通年	180	6			○	○		○		
○			マーチャダイジング論Ⅱ	1 アパレル製造業のマーチャダイジング業務について指導を行い、社会に適合したマーチャダイザー、デザイナーを目指す学生の為の実務教育を行う 2 アパレルマーチャダイジングの発想法、手法、マネジメント、プレゼンテーションについて体系的かつ具体的な実践学習によるスキル習得 3 前期には個々で既存ブランドを設定リサーチによりコンセプト&商品計画を組み立て、そのブランドの具体的な企画を立てる事により、ブランドマーチャダイジングの基礎	3・通年	60	2	○			○		○		

○			マーチャнда イジグ演習 企画	<p>を習得 アパレルジ叔の基礎能力を身につける 4 後期にはグループにて仮想設定による ブランディングの過程を实践 グループワークでブランド設定、ブランドのコンセプト 〜プロダクトMDの基本構想を計画 それにもとづいたS/S商品企画〜デザイン グを行い、造形授業と連動しサンプル製作 する パワーポイントによるプレゼンテーションを行う事 によりコミュニケーション力などの個々の能力向上 を目指す</p>	3 ・ 通 年	90	3		○	○	○							
---	--	--	------------------------	--	------------------	----	---	--	---	---	---	--	--	--	--	--	--	--

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 インダストリアルマーチャダイジング科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			生産企画	<p>アパレル製品を生産する上で必要となる業務について、メーカーにおける生産関連担当者の職域を中心に学ぶ。</p> <p>商品企画段階で設定される、品質(Q)・原価(C)・納期(D)を高水準で成立させることを目標に、生産実務に至る準備段階から事後処理までを体系的に理解する。グローバル化に伴う海外生産の拡大も視野に入れ、今後のアパレル生産の行方を考慮の上、各自でアパレル製品の生産企画を立案する。</p>	3・通年	60	2	○			○		○		
○			ニットアパレル造形Ⅱ	<p>ニット製品に使用される素材や編地の知識、縫製から仕上げ加工までニットにかかわる基本的な知識を総合的に学び、アパレルの中のニットを理解できる人材を育成する。ニットの素材や編地は主に家庭用手編み機の制作を通して理解を深める。</p>	3・通年	60	2			○	○		○		
○			アパレル造形演習 カット&ソー	<p>丸編みカットソーの縫製の知識とミシン活用。美しいシルエットを立体裁断のパターンを取得と企業パターンの実践指導。</p>	3・通年	60	2			○	○		○		○
○			テキスタイル造形演習	<p>前期：「手織り」を通じて、布帛の構造や特徴を理解することで、アパレルデザインにおけるテキスタイルの可能性を学ぶ。</p> <p>後期：テキスタイルデザインにおける先染め、後染め、染色仕上げ加工の技法の理解と習得。</p>	3・通年	60	2			○	○		○		
○			ファッションマーケティングⅡ	<p>アパレル業界におけるマーケティング業務の実務を講義と実習により指導し、ファッションマーケティングの基礎知識を習得させる「実学」を目指す。</p>	3・通年	60	2	○		○	○		○		○

○	ビジュアル マーチャンダ イジング	<p>授業概要:VMD 基礎 (VMD 基礎知識/座学、VMD 基礎知識に基づく演習・実習・プラン及び実践・応用)</p> <p>到達目標: VMD の基礎知識を踏まえ、プラン～実践 (陳列・演出) ・応用が出来るレベルを目指す</p> <p>レベル設定: Lv1. VMD 基礎知識を習得 Lv2. 基本的な実践 (陳列・演出) が出来るレベル Lv3. VMD 基礎知識に基づきプラン～実践 (陳列・演出) ・応用が出来るレベル</p>	3 ・ 通 年	60	2	△	○	○	○	○
---	-------------------------	--	------------------	----	---	---	---	---	---	---

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 インダストリアルマーチャンダイジング科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			セールスワーク	販売員の重要性、必要性を理解する。接客販売の流れとそのポイントを理解する。 販売としての基本的な立ち居振る舞い、また接客の楽しさ、難しさをロールプレイングを通して学ぶ。	3・後期	30	1	△		○	○		○		○
		○	ファッションデザイン画Ⅲ	ファッションデザイン画の技術を中心に進路によって具体的な目標をたて、必要な表現方法を習得する。	3・通年	30	1			○	○		○		
○			グラフィックワークⅡ	ファッション産業におけるグラフィックの役割と有効性を理解し、ファッション表現のツールとしてパーソナルコンピュータ及び、グラフィックソフトを使う能力を身に着けると同時に、各自の企画デザイン力及びプレゼンテーション能力の習得、向上を目標とする。ファッショングラフィックの制作を通してブランディングの意識を養う。	3・通年	60	2	○			○		○		
○			特別講義ⅢA	レギュラー授業には含まれない関連分野の専門知識を習得する。	3・前期	30	1	○			○		○		
○			特別講義ⅢB		3・後期	30	1	○			○		○		
		○	コラボレーションc	各自コンセプトに基づいたクリエイション性の高いデザインの表現力を向上させる。 企業とのコラボレーションにより自己の可能性を発見し創造性の領域を広げる。人と人との様々な繋がり調和が必要となるため柔軟な人間力、コミュニケーション能力を身につける。	3・通年	30	1			○	○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工科専門課程 インダストリアルマーチャンダイジング科) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			卒業研究・創作	・マーチャンダイジング計画（ブランド設定からプレゼンテーションまで） ・ブランドのパイロット商品の開発（デザイン開発及び製品製作）	3・後期	120	4			○	○		○		
学科合計				16科目	1140単位時間(38単位)										
総合計				58科目	3450単位時間(115単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。